参考資料３

隣接地域における地域からの意見把握等について

１　実施年月日
　羅臼町　　令和６年 10 月 23 日（水）
　斜里町　　令和６年 10 月 24 日（木）

２　参加範囲
　地域住民（自治会・町内会）、観光・ガイド、猟友会、農業従事者、捕獲事業者、道路管理事業者、利活用事業者、警察、行政関係（斜里町、羅臼町、環境省、北海道、林野庁）

３　2024（令和６）年度の結果
（１）個体数調整に対するご意向
　これからも有害鳥獣駆除や捕獲事業を継続的に実施して欲しいとのご意向。

【主なご意見】
・　羅臼町側からは、農業被害が多いこと、地域住民の安全を確保すること、個体数が少なくなっても観光資源としてあまり影響はないことなどを考慮すると、規制区域が比較的多い羅臼町では、有害鳥獣駆除や捕獲事業を継続的に実施して欲しいとのご意見。
・　斜里町側からは、市街地が柵で囲まれた後、多くの住民が柵内の個体の追い払いに参加する等大変な苦労を経ており、その後、全道的に有害鳥獣駆除や捕獲事業が実施され、現在のように被害が落ち着いたところであり、これらが継続して行われなくなったら、以前よりも被害が発生することが危惧されるので、今後も有害鳥獣駆除や捕獲事業を継続的に実施して欲しいとのご意見。
・　利活用事業者からは、捕獲者の高齢化、銃弾の不足、燃料費の高騰等捕獲活動に不利な要素は多々あるが、個体数管理自体、コストと成果だけを比較してやるべき取り組みでは無いと考えるので捕獲圧は一定してかけ続けるべきとのご意見。

（２）密度感に対する意見等
　直近では、見かけることが少なくなったとのご意見がある一方で、場所や時間によってはよく見かけるとのご意見。

【主なご意見】
・　以前は、人を見ても逃げない個体が多かったが、有害鳥獣駆除や捕獲事業を始めてからは人を見ると逃げる個体が多くなった印象。
・　捕獲されない場所や時間帯を学習した個体が多くなった印象。
・　羅臼町側では、牧草地の広がる峯浜町付近で多くの個体が確認できる。
・　斜里町側では、鳥獣保護区等特定の場所に多くの個体が留まっていることが確認でき、この地域の個体は、人を見ても逃げない印象。

（３）その他
・　捕獲事業を地域住民は見ることがないため、事業による恩恵を感じ取りにくい部分があると感じる。今後も、この意見交換会のように、その結果や意義を地域の方へ説明いただき、今後の捕獲事業の実施の可否について地域に問いかけてもらいたい。
・　野生動物は、何万年も生き続けてきているので、個体数調整に関しても、10 年、100 年といった長い期間で考えていく必要があると思う。
・　エゾシカ有効活用施設としては、良質な原料をより確保したいので、捕獲者に対して、有害鳥獣駆除に積極的に参加する機会を推進するため、報酬だけで無く、社会的に奉仕している意識を高める施策を考えてもらいたい。